

## 〈メディカル最前線〉

# 食物アレルギーの診断と治療

### 食物除去の 治療法を覆す二重アレルゲン暴露説

乳児期のアトピー性皮膚炎は、食物アレルギーを伴うことが多く、原因となる食品を避けて症状を抑え、耐性を高めていくことが治療の中心でした。しかし、2008年、イギリスの小児科医Lack.G氏が二重アレルゲン暴露説を唱えたことで、大きく方向転換されました。それは、乳児期のアトピー性皮膚炎に伴う食物アレルギーは皮膚で起こるもので、必ずしも食品が原因ではないということです。

そのポイントは、①食物アレルギーの発症過程は十分に解明されていないが「食べるからなる」「食べなければならぬ」という原則は成り立たない②バリア機能が低下した皮膚が刺激を受けやすくなることで、食物アレルギー



Dual-allergen-exposure hypothesis for pathogenesis of food allergy. Tolerance occurs as a result of oral exposure to food, and allergic sensitization results from cutaneous exposure.  
Lack G. : J Allergy Clin Immunol 121:1331-1336,2008

を発症する③乳児期にアトピー性皮膚炎などを早めに改善することで、食物アレルギーの発症抑制が期待できる、ということ。さらに不要に食品を除去することで、食物

食物アレルギーは、アトピー性皮膚炎など皮膚障害と深い関係があります。現在の最新治療についてご紹介します。



広島共立病院 小児科医長  
東 浩一 医師

アレルギーやアナフィラキシーを増加させる、とまで言われるようになりました。

### 少しずつ食べることで 耐性を高めていく

現在、食物アレルギーの治療は、アレルギーの原因となる食品を少しずつ食べ、耐性をつけて普通に食べられるように導く方法が主流になっています。乳児期に食物制限を続けると、偶然口にした時、重症になりやすいのです。1歳半～2歳までには腸管の免疫機構が出来上がるため、いろいろチャレンジしていくことが望ましいでしょう。こまめに食物負荷試験を行い、陰性になったら食物除去をやめ、症状がある時は、安全な量を正しく把握し、食べながら治療していくことが大切です。

※当病院では、入院での食物負荷試験を行っています。希望される方は、火曜日のアレルギー外来を受診してください(要予約)。



### 新病院レポート

## 新病院完成目前!

新病院の空撮写真です。ブルーシートが取り外され、6階建ての新病院がくっきりと浮き上がりました。外回り工事は仕上げに入り、屋上には、空調機や発電機、電気設備の設置も確認できます。内装工事も急ピッチで進んでいます。安川土手側からは大きな橋にて救急車がスムーズに入れる状況も見てとれます。写真上は現在の病院です。さすがに幅約100mの新病院、規模の違いを感じます。

